

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795700026		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)		
所在地	大阪府四条畷市雁屋北町15-16		
自己評価作成日	平成26年10月22日	評価結果市町村受理日	平成27年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2795700026-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2795700026-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年11月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が第二のご自宅として、家庭的な雰囲気の中、安心した生活をさせていただくことを目指しています。たのしい家四條畷の職員の理念として次の3つを掲げて運営させていただいています。①日々の生活の中で、季節の移り変わりを感じていただける施設②職員と一緒に地域の中で新たな楽しみと生きがいを見い出せる施設③心から「ほっ」とできる笑顔あふれる施設。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から3年の当該事業所は地域に向けてまずは事業所を知ってもらう事を大切に、毎日の近隣の方への挨拶をはじめ地域で開催されているサロンに参加し交流を通してボランティアとして事業所に来て体操を教えに来てくれる事になったり、認知症セミナーの開催等にも取り組んでいます。落語会を通して地域の方に事業所へ来てもらう機会を作っており、今後はさらにカフェの開催も検討しています。職員間はチームワークもよく利用者一人ひとりと深く関わり見極めながら毎日の食事作りや趣味の習字、カラオケ、過去の仕事を活かして棚を作ってもらったり、布を縫い合わせてカレンダーを作ってもらう等、出来る事を大切にした支援に取り組んでいます。また、家族かの意見や要望を得た際は文書を作成し全家族にフィードバックし信頼関係の構築につなげています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご入居者それぞれの思いを大切に、尊重できるように、事業所理念を掲示し、常に職員が再確認しながら従事しています。ご入居者はもちろん職員にもたのしいと思ってもらえるグループホームを目指しています。	法人の理念と開設時に職員間で作成した事業所の理念を玄関に掲示し、週一回申し送りの際に読み合わせを行っています。会議等では地域密着への取り組みをはじめ、理念にそった支援が出来るかを確認しながら話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大きなイベント・行事には、地域の方もお呼びして開催させていただいています。散歩や朝夕の施設周りの清掃や花や畑の水遣りの際にも、地域の方にお声掛けをいただいたり、挨拶をしたりしています。また地域の行事にも積極的に参加するように努めています。	自治会に入会し、地域の行事案内をもらい参加しています。地域のふれあいサロンへの参加や毎日の散歩、事業所周辺の掃除の時に近隣の人に挨拶、近所の喫茶店に行く等交流を深め、事業所の菜園のアドバイスをもらったりボランティアの来訪等交流が増えています。また地域の方に案内をして落語の会も開催しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	去年と同様に認知症の方の理解につながるようセミナーを開かせていただく予定です。地域包括支援センターの方に勉強会を開いてもらったりしています。また、運営推進会議の時に認知症について説明を指せていただいたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を2ヶ月に1度開催し話し合いで出てきた内容は、対応させていただいています。ご家族様の意見を反映し、外部ボランティアの活用の実現をしました。さらに、様々なボランティアの方や地域のつながりを広げています。	会議は利用者数名、家族、地域包括支援センター職員参加の下、2か月に1回開催しています。行事等の写真を見ながら事業所の活動報告を行い、参加の利用者にも感想を述べてもらっています。地域のイベントや関心事等の情報を得たり、より地域との関わりも持てるような取り組みについて有意義な話し合いの場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、社会福祉協議会、認定調査員の方から情報やアドバイス等を頂き協力関係を築くように努めています。	運営推進会議の議事録を市の窓口へ持参した時に、市の担当者に状況を伝えたり、日頃わからない事や困った事があれば相談しています。また市職員の方の来訪の際は事業所を見学してもらい、研修の案内をもらい参加する等協力関係を構築しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を通じて、職員の理解に努めています。外へ通じる扉は、安全面を優先し、ご家族様了解のもと電子錠にて施錠させてもらっています。入居者様の希望に合わせて散歩や買い物に出たり、庭にあるベンチで団欒することもあります。	法人の虐待防止研修に職員が参加し、事業所の会議の際に伝達研修を行っています。伝え方や捉え方と言葉による行動の抑制につながる事も含めどのような事例が拘束なのか話し合いをしています。ユニットごとの施錠はせず、外への扉のみ施錠していますが、外出希望の利用者には出来る限り付き添って外出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を通じて、職員の理解に努めています。ご入居者の尊厳について話し合い、虐待になりかねない事例について検討をしています。		

グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を通じて、職員の理解に努めています。現在、成年後見人制度を活用されているご入居者もいらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、会社・事業所の理念、運営方針、金銭面等の説明を十分に説明し納得頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に来訪された時、運営推進委員会のご出席の時にご意見やご要望を出していただいています。また、ご家族様の相談便りという、用紙も発行させて頂いています。	利用者の意見は日々の関わりや運営推進会議の際に聞き取り、家族の意見は事業所来訪時や運営推進会議時、利用者との日々の支援の中でのお話や様子から時々面談の機会を作り意見や要望を聞いています。医療連携についてや事故・ヒアリハットの連絡、レクリエーションを増やして欲しい等の得られた意見は、運営に反映すると共にその対応を文書にして全家族に伝えていきます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が月に一回の施設会議を開き、職員の意見や提案を聞き、検討を行い反映しています。また、常に職員の意見や提案を引き出せる職場環境づくりに努めています。	月1回の全体会議や各ユニット会議、個別でも職員と意見交換しています。また、管理者が不定期で職員にアンケートを実施し、相談しやすい環境づくりに努めています。また年に1回面談の機会もあります。職員の意見を受け夕方に入浴可能にできるよう出勤時間の調整を行う等運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力したものが報われるような体制を会社全体でとっています。また、希望休・有給等を取得しやすい環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望があれば会社内外の研修に積極的に参加を促しています。また、誰もが参加できるような研修等の情報を全員に公開しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設の交流会に参加し、他施設との情報交換を行い、施設づくりに反映させて頂いています。		

グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には、慣れない環境で様々な不安を抱えておられるかたがほとんどなので、ご本人の様子や発言に注意を凝らし、安心できる雰囲気づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の雰囲気を体感して頂き、安心してご本人様を入居できるような対応を努めています。また、入居してからも良好な関係を維持して頂ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期には、ご本人様のご納得していただけないこともあります。が、親身になってご本人様に寄り添い安心して頂けるように努めています。ご家族様にも希望があれば、ご本人の様子を電話等で報告させてもらい、安心して頂ける様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状態を見極め、できることはご自身でして頂き、出来ないことを支援させて頂けるように努めています。また、人生の先輩として尊敬し、その人らしさを引き出せるような声掛けや対応に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の生活歴や職業歴をご家族様にお聞きし、それを施設でも生かせるように努めています。また、ご本人様が、望まれているようなことをご家族様にお聞きしたりもし、共にご本人の人生を支えて下さるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を幅広く設け、以前の関係を継続できるように努めています。日頃のコミュニケーションやご家族様からの情報で、ご本人の馴染みの場所へ出かけたりしています。	友人が来訪した際は居室でゆっくりと過ごしてもらったり、電話を使用しこれまでの関係が途切れないように努めています。家族、友人と一緒にカラオケに行ったり、外食へ出掛けたりしています。また、墓参りや家に帰ったり、旅行に行く等、家族の協力を得ながら実現できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士が良好な関係を築ける様、雰囲気を見て職員が間に入ったり、様子を観察させて頂いています。また、孤立のないように、声掛けや雰囲気づくりに努めています。		

グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても関係性を大事にできるように努めています。ご相談には随時、対応できるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活が行えるように毎日のコミュニケーションから、ご本人の希望等を感じ取ろうと努めています。また、職員間で、ご本人様本位のできることを検討しています。	入居時に利用者や家族に希望や意向を聞いています。利用者に日記を書いてもらいその中から思いを探ったり、外出の際の様子やコミュニケーションを図りながら思いの把握に努めています。困難な場合は日常の支援での様子や表情から家族にも確認して思いを汲み取っています。把握した思いは、フェイスシートに追記して、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に、生活歴等を聞くようにし、その人が過ごされてきた生活を施設でも継続できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1度のカンファレンスや毎日の職員の気づきから、ご本人様の1日の過ごし方がより良いものであるように検討しています。また、介護記録・申し送り等でご本人様の心身状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の変化に応じて、職員間の話し合いやご家族様への説明、相談を行い、常にご本人様のニーズに応じた計画をたて、より良く暮らせるよう努めています。	利用者、家族の思いを聞いて、必要があれば医師や看護師にも相談し、居室担当職員、ケアマネジャーで話し合い、方向性を決め全職員からも意見を聞いて介護計画を作成しています。3か月毎のモニタリング、カンファレンスを実施し、短期で6か月、長期で1年で見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やその他の記録表にて、ご入居者の個々の状態を職員間で把握するように努めています。また、重要なことは、口頭でも申し送りさせて頂いています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者の現状に応じたニーズをくみ取り、対応をさせて頂いています。		

グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設のイベントや行事の際に地域の人にも参加をしていただいたり、地域の催しに参加させて頂いたり、日常でもお花や畑の水やりや施設廻りの清掃時に地域の人との交流を深める機会があります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、ご本人様とご家族様に提携医の説明を行い、納得・了解して頂き月2回の往診をお願いしています。他科の受診が必要なときには、提携医に紹介状を書いていただき、早急に適切な医療が受けれるよう努めています。	入居時にかかりつけ医の選択が可能な事を説明しています。現在内科は全員が協力医に変更しています。協力医による月2回の往診、訪問看護師による週1回の健康管理を受け連携が図られ、24時間連絡可能な体制をとっています。他の科の病院へは家族の協力を得て受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師がご入居者の健康状態を管理しています。何か異変等があれば、提携医に連絡したり、職員と連携してご入居者の生活を支えさせていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設の協力医療機関があり、情報交換や相談に努めています。入院中、病状に応じては、訪問看護師の協力を得、早期退院が出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様に重度化・終末期の説明をさせて頂いています。その時に、医師・ご家族・施設で面談をさせてもらい、ご入居者の今後のケアプランを考えさせていただきます。連絡を密にし、ご本人・ご家族様の意向を大事にしています。	入居時に指針に基づいて医療行為については出来る範囲についても家族へ説明をし、同意をもらっています。これまで看取りの支援はありませんが、現在終末期に近い利用者があり、家族、医師、職員で話し合いながら支援体制を作っています。職員間で質問や不安があれば医師に相談し、ミニカンファレンスを実施し対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の緊急や事故発生時のマニュアルがあり、職員は初期対応の研修を受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方に協力していただき、年に2回の消防訓練を実施しています。緊急時のマニュアルを職員に周知しています。	年2回内1回は消防職員立ち合いの下昼夜想定で訓練を行っています。移動の方法や消火器の使い方も実施しています。災害時に備え備蓄もしています。事業所の避難訓練の際には近隣に声掛けを行っています。協力の体制づくりは今後の課題としています。	万が一災害等が発生した場合に近隣の方の協力を得られるよう、まずは事業所を知ってもらう事が大切と考えられています。様々な取り組みを通して地域との協力体制が構築される事を期待しています。

グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりが、それぞれの人生経験をされている方なので、その方に寄り添い、その方を尊重した対応をさせて頂くように努めています。	法人のプライバシー研修に職員が参加し、事業所の会議の際に伝達研修を行っています。利用者は人生の先輩であるという意識で日々接するように職員は努めています。呼び方は家族の了解を得てその方に合った呼びかけ方に変更する場合があります。また言葉遣いに問題があれば管理者から注意したり、職員間でも注意し合うようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、ご本人様が安心できる雰囲気をつくるよう努めています。その中で、お話を傾聴し、ご本人様の思いや希望をお伺いするように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活リズムに合わせた対応を心掛けています。その方のしたいことをコミュニケーションから引き出し、希望を叶えるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	約1ヶ月に一度訪問理美容を利用し、整容に努めています。毎日、お化粧をされる方、化粧水等を使用される方もいらっしゃいます。また、地域の理髪店へ同行で行かれることもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、できることをご入居者にもして頂き、一緒に作るようにしています。季節に合ったお食事、外食等も行っています。	栄養士が立てた献立を基に業者から食材が届き、日曜日の朝食は利用者を買物に行っています。食事の準備は包丁で食材を切ったり、炒めたり得意な事や出来る事を一緒に行ってもらい、職員も同じ物を利用者と一緒に食べています。行事としてバーベキューや鍋をしたり、希望を聞いて時にはカップラーメンをアレンジする等メニューに変化を付けています。また事業所の菜園で収穫した野菜も食卓に上り利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の確認を介護記録にてチェックしています。変化がある場合は、申し送りにて職員間で伝え合い、その方の健康状態の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりに合わせた声掛け、介助を行い、毎食後に口腔ケアをしていただくように努めています。また、週に一度歯科往診があり、その時に口腔ケアと口腔状態を見て頂いています。		



グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様のできる範囲の排泄能力を見極め、介助を行うよう努めています。介護記録で、排泄間隔を探り、声掛け・誘導を行っています。	利用者の排泄のペースを探りながら記録を取り、個々に応じたタイミングで声掛けし、トイレに誘導しています。布の下着で過ごす方や話し合いを重ね本人の希望でおむつを使用している方もいますが、利用者一人ひとりに応じた支援となるよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、身体を動かすように体操や散歩・レクリエーションに力を入れています。便秘が見られる方には、申し送りにて職員間で伝え合い、おやつにヨーグルトを食べて頂く等の工夫をしたり、医師の指示のもと下剤を使用することもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則、曜日にて入浴日を決めていますが、ご本人様の体調や希望に柔軟に対応させて頂いています。	朝10時半から15時までを基本に週3回の入浴を支援しています。拒否される場合は声掛けの方法や職員を変え、入ってもらえるよう工夫をしています。また入浴剤を入れたり、菖蒲湯やゆず湯など季節湯を実施し入浴が楽しみとなるように支援しています。職員2名体制で入浴を実施し、夕方の入浴も出来るよう人員を調整し利用者の希望を大切にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を見てお声掛けをさせていただきますが、お一人おひとりが眠たい時に眠れるように対応しています。中々、眠れない方には、お話を傾聴させて頂くなど、安心してもらえるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の内容は職員が確認できるようにしています。変更がある場合は、申し送りにて伝えていきます。誤飲・飲み忘れがないように服薬時は、必ず確認を行い、介護記録にサインしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・洗濯・掃除を手伝っていただいたり、その方の生活歴・職業歴に合わせた、楽しみごとを支援できるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩は、雨の日以外は毎日、1ユニット2~3名のご入居者が行かれています。また、ご本人の希望に沿った外出が行えるようにも支援できるよう努めています。	毎日の散歩や随時買い物に出掛けたり、喫茶店や月1回開催の地域のふれあいサロンへ出掛ける等の外出の支援や少人数でコンサートへ行ったり、公園等へドライブにも行っています。また利用者の誕生日には本人・家族から聞いた好きな場所へ職員と1対1で出掛け、希望に合わせた外出支援もしています。	



グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、施設にて行っています。ご家族様に紛失等のご理解のもとでご本人がお金を所持されている方もいらっしゃいます。預り金についてご本人様に説明を行い、買い物には、ご本人の希望に即して行けるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がありましたら、ご家族様に電話をさせて頂いています。頻度が多くなりご家族様の負担とならないよう、相談させていただくこともあります。お手紙として、ご入居者様に年賀状を書いていただく行事を予定しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔保持できるよう努めています。玄関廻りのお花や庭の畑には季節に合ったものを一緒に植えさせて頂いたり、壁紙や飾り等も季節にあったものをご入居者と共に作って展示をさせて頂いています。	廊下の壁に毎月季節を取り入れた作品を掲示し、リビングには生け花を置いたり、利用者が縫製した布製のカレンダーを飾る等、季節感を大切に温かい雰囲気になるよう工夫しています。リビングや廊下にもソファを置いて一人や少人数で寛げるスペースも確保しています。温度計、湿度計を配置して管理し、掃除も毎日実施して清潔を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は、フロアにてご入居者同士で会話されたり、カラオケをしたり、ソファに寛がれたり、思い思いの時間を過ごされています。ご入居者同士が招きあい居室にて談笑される姿も見られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居されるときに、ご家族様に家具等は、できるだけご本人の馴染みのあるものをご用意いただけるようお願いしています。持ってくるものは各ご入居者によって様々であり、個々でアレンジして頂いています。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらう事を伝え、使い慣れた鏡台や趣味の習字道具、大切にしている家族の写真や仏壇、そのほか冷蔵庫や携帯電話、ラジカセ、ぬいぐるみ等を持ち込み、その人に合った居室作りを支援しています。利用者の希望により絨毯を敷いて布団で休む方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には、ご入居者の名前が書かれています。トイレがわかりにくくされていたので、トイレの扉にトイレの絵を掲げるようにする等工夫に努めています。		